

名古屋市会自民党行政視察報告書

松原武久名古屋市長 殿

報告者	提出日	団長		
丹羽ひろし	平成20年 4月 7日			

出張先	福岡市役所	期間	平成20年 3月28日 ～ 月 日	出張者	横井利明・斉藤 実 前田有一・坂野公壽・ 丹羽ひろし
-----	-------	----	----------------------	-----	----------------------------------

目的	・香椎地区再開発について
----	--------------

報告事項	
------	--

<p>3. 面談者:福岡市市会事務局 総務課長 喜代美 直一 福岡市都市開発局 開発事業課長 南里 隆幸 〃 香椎振興整備事務所 計画課長 守田 剛</p> <p>3. 報告内容 福岡市香椎地区再開発について 福岡市は、都心部(天神)と周辺副都心として西部副都心(西新)、南部副都心(大橋)、東部副都心(香椎)の3つの副都心で構成されております。 福岡市総合計画において東部副都心の開発として、香椎駅周辺に「生活文化核」、香椎操作場地区に「活動核」を形成し、2つの核の中心部を「交流ゾーン」となる構造から、鉄アレイに見立てた『あれい構造』の副都心を目指しております。 香椎駅周辺地区は、操作場跡地(66.3ha)を大規模遊休地利用により UR 都市機構が事業主体となり、福岡市都市整備局が立体交差事業を含め西香椎駅周辺(20ha)の土地区画整理事業を行っております。</p> <p>※別紙資料</p> <ul style="list-style-type: none">・香椎地区副都心区画整理事業の概要・香椎駅周辺地区のまちづくり(香椎駅周辺土地区画整理事業／福岡市都市整備局)・香椎副都心土地区画整理事業(UR 都市機構)・香椎地区まちづくりニュース・商店街及びイベント箇所図 <p>※都市機能更新型の土地区画整理事業…鉄道の高架化や幹線道路、駅前等の基盤整備や副都心の核となる多様な都市機能を導入する事を目的とする事業。</p>

感想

連続立体交差事業や線路を移設するなど、大規模な都市計画により、将来の人口増加、商店街の賑わいなどを含めて「生活文化核」、「活動核」を形成し、その間を「交流ゾーン」に見立てた『あれい構造』の副都心を目指していました。

名古屋市のまちづくりを参考にしているとの話でしたが、福岡市は自動車産業の育成を含め九州の中核都市とし市民が安心して暮らせるまちづくりを計画していました。

追記: 昼食は職員食堂を利用しましたが、高い階にあり明るく衛生的な雰囲気です。料金も安くご当地の食物も多く名古屋市との差を感じました。又、エレベーターに“閉”のボタンが無く、昼休みは各部屋も消灯し省エネに対しまじめに取り組んでおられました。



※平成 19 年度の福岡市概要:【人口が 141 万人で一般会計が 6740 億円(自主財源 64.6%)、全会計で 1 兆 8310 億円、職員数 9758 人(名古屋 26839 人)議員数 63 名(定数 72 名)】